



PT. NNA INDONESIA

Setiabudi Atrium Building 2F, Suite 208, Jl. H.R. Rasuna Said, Kav.62  
Kuningan Jakarta 12920 Tel : 021-520-1423 Fax : 021-520-1424 E-mail : sales\_id@nna.asia

MCI(P)047/04/2014

## ボウフラ駆除剤を本格生産 九州メディカル、来年販売

九州メディカル（北九州市）は、インドネシアで蚊の幼虫であるボウフラの駆除剤の生産を本格的に開始する。当局による登録検査手続きなどを経て、来年中の販売開始を見込む。蚊を媒介する感染症であるデング熱などの防止対策として、現地の自治体を中心に売り込む考えだ。【山本麻紀子】



デング熱の原因となるネッタイスマカのボウフラ（左）。モスノンで処理した24時間後（右）にはすべて死滅した（九州メディカル提供）

デング熱やマラリアなど、蚊が媒介する感染症の原因となるボウフラを駆除する「MOSNON（モスノン）」をこのほど開発。殺虫タンパク質を主成分とする薬剤をボウフラが摂取することで、殺虫効果が得られるようにした。

ボウフラの生息地である側溝などに、水200リットルに対して1錠を入れて使用すると、殺虫効果が1～2週間もつという。一般の化学殺虫剤は、蚊以外にも作用す

るため生態系への影響が懸念されるが、モスノンの殺虫効果はボウフラ以外には作用しないため、環境への負荷が少ないことが特徴だ。

生産は、西ジャワ州ブカシ県タンブンの現地企業に委託する。当初の生産能力は月50万錠だが、需要に応じて増強する。生産工場には九州メディカルから社員1人を送り込んだ。事業が軌道に乗れば、資本を注入して現地法人化することも視野に入れている。

### 日本での販売も検討

九州メディカルがモスノンの開発に乗り出した背景には、インドネシアでデング熱など蚊が媒介する感染症の患者が多いことがある。同国保健省によると、患者数は毎年、数万人規模に上る。

販売は、現地の代理店を通じて行う。自治体の公衆衛生の担当部署を中心に売り込みをかけるほか、民間企業（次ページへ続く）

[2]The Daily NNA インドネシア版【Indonesia Edition】 第04348号

2014年(平成26年)9月26日(金)

への販売や輸出も検討している。販売に向けて今月、インドネシアの農業省に登録申請した。九州メディカルの前田取締役によると、同国政府が指定する試験機関による品質検査などを経て、半年～1年後に販売が可能になる見通しだ。

海外にも出荷する予定だ。9月上旬にマレーシアで開催された害虫駆除業界の展示会に出展したところ引き合いがあり、シンガポールやスリランカでの販売に向けて提携先との協議を始めた。

日本での販売も検討している。8月にデング熱の国内感染者が戦後初めて確認されたのに続き、全国各地で発症した患者が相次いでいるためだ。ただ、蚊など衛生害虫に対する殺虫剤は、日本では医薬部外品に分類されることやコスト面を考慮すれば、輸入販売のハードルは高い。前田取締役は「日本の市場の動向を見ながら、販売に向けて検討したい」と語った。

### 養殖用微生物資材の生産5倍に

インドネシアでは約10年前から、養殖産業が盛んな

エビの養殖用微生物資材を委託生産・販売している。現在はジャワ島やスマトラ島の養殖場を中心に、免疫を向上して病気やストレスに強いエビを育てる「PowerLac（パワーラック）」や、養殖場の環境を改善して生産力を向上する「ARIAKE（アリアケ）」を取り扱っている。

両製品とも年々販売量が拡大しており、生産工場はフル稼働に近づきつつある。モスノンを本格的に生産するのを機に、西ジャワ州ブカシのジャバベカ工業団地内のレンタル工場への移転を決定。来年1月から稼働する予定だ。

年産能力は現在のタンブンの工場の10トンから、新工場の稼働後は5倍の50トンに拡大する。現地での販売だけでなく、海外への輸出にも乗り出す。マレーシアやベトナム、フィリピンへの出荷に向けて、現地販売会社との協議を開始した。